

令和6年度第1回京都府救急医療懇談会 議事概要

■概要

日時：令和6年9月2日（月）午後3時から4時まで

場所：京都府庁福利厚生センター3階第1会議室

出席者：別添出席者一覧のとおり

■議事

1 開会

京都府健康福祉部 奥田委員から挨拶

2 出席者紹介

別添出席者一覧のとおり事務局から紹介

3 会長の選出

事務局から京都府健康福祉部 奥田委員を推薦

→ 賛同多数により承認

4 協議事項

・救急医療体制の現状課題

◇主な発言

- ・ 二次救急では、体制を確保していても受入が入ってこない。また、三次救急が二次救急の搬送も受け入れている等の現状がある。
- ・ 救命救急センターの指定の要件に従って受入れを行っている。重症で入院を要する方でも最初のバイタルサインでは分からない場合もあるので、一旦、受入れて重症度を判定し、軽症の場合は転院をお願いしている。
- ・ 京都市内外、区ごとの傾向があると考えている。早期の連携搬送を意識している。
- ・ 下り搬送は診療報酬が付き始めたので、点数の請求数を見れば実績が分かる。救命救急センターでのトリアージは本来の形ではない。三次救急が不足しているために救命救急センターの指定を行ったので、節度ある救急の受入れをお願いしたい。
- ・ 搬送困難件数は昨年度に比べて減っており、医療体制が強化されたことが一因と考えている。
- ・ 働き方改革については、今年度、救命救急センターの指定と重なり何事もない様子だが、本来は大変なことになっていたはずで、（救命救急センター指定が）無かった前提で議論する必要がある。
- ・ 救急の実績値はコロナによるバイアスががかかっており、当てにならないところだが、搬送困難症例が下げ止まっていることは問題。医療機関が断っている様子もないため、

何が原因か突き止める必要がある。

- ・ 救急隊には詳細に観察して搬送することを求めているため、搬送時間が長くなることもある。近い場所ではなく、離れていても、しっかり受入れられる医療機関にバイパスをかけて搬送することも検討してはどうか。
- ・ 救急医療情報システムの入力率が低いことが課題。京都府からの周知も必要と考えている。
 - 救急の受入可能病床をリアルタイムで入力していただいているが、事務上の手間もあり、1日何度か入力する現状となっている。毎日、入力の督促を行っているが、ルーティン化により漏れていることもあるため、しっかりとお願いを継続していく(事務局)

・ 第8次京都府保健医療計画における救急医療の方向性

◇主な発言

- ・ 高齢者救急は医師会でも議論いただいているが、医療部局だけで議論せず、府民のコンセンサスを得る必要がある。福祉、保健、警察、弁護士等による混合的・倫理的な議論が必要。
- ・ 京都府の救急の遅れはプレホスピタルの遅れにあり全国トップクラス。この課題が解決されないと人も集まらない。搬送時間は長くても医療が介入する時間が早い場所は多くある。医師のデリバリー等プレホスピタルの在り方は改善する余地があり、医療機関で受入れたことと同じ状況にする方法があるということはマイナスにはならない。
- ・ ICT化(画像転送等)の遅れが救急の遅れに繋がっている。京都市消防においてマイナンバー利用による薬剤、受診歴の管理が試行されるが、府内で進んでいけば受入れがしやすくなるので、今後、議論いただきたい。
- ・ 高齢者の医療、ACPやDNARは市民への教育が重要。神戸市等のモデルがある様なので、そちらを参考に進めていただきたい。
- ・ DNAR以外でも高齢者救急の問題がある。回復期で診るべきではないかといった話もあり、そのことを踏まえた議論を行っていただきたい。
- ・ 基本的には、救命救急センターではなく、二次救急で受け入れることが本来の形ではあるが、どのような手順にするかについては議論が必要。

- ・ 今後の進め方
- ・ 救急病院を対象とするアンケート(案)

◇主な発言

- ・ 保健医療計画との関係において、今後の議論が目標数値等とどのようにリンクするか整理が必要
 - 資料⑬について、アウトカムをまとめた一覧となっており、中間アウトカムとして、症例ごとの選定困難事案の割合に係る指標を定めているところ。6年計画となっ

ているが、中間見直しの機会もある。(事務局)

- ・ 高齢者の救急について、府市の高齢者・障害者担当部局から併せて意見を出せればと思う。特に介護・障害福祉現場の意見等を何らかの形で吸い上げて議論を進めることが望ましい。
- ・ 消防と医療機関の間の情報共有の ICT 化は進めていかなければならないので、何らかの形で議論を進めていただきたい。マイナンバー通じて得た情報も現状は口頭で伝えている。今後、共有方法等についてもアナログ体制からデジタルにして、より高度な情報をできるだけ効率的に送れるように変えていただきたい。
- ・ DNAR については、京都市だけ解決できる問題ではないので、府統一の基準を議論いただきたい。

5 閉 会

事務局 安原副部長から挨拶

以上